

「時の音」「時の向こう側」

基礎教育 相澤久徳



2019年より東京工芸大学、教職関係の授業担当者として着任。東京藝術大学大学院彫刻専攻を修了後、彫刻家として主に石を使用した作品を、個展を中心にグループ等で発表。作家活動とともに、美術教育の現場で指導者として、幼児教育から初等、中等、高等教育、また美術の専門分野での表現指導と、様々な教育環境での現場で美術教育指導に従事。教職の授業の中で、美術科指導法と現場での実務について、また、彫刻の実技指導をしている。



石自体が作り出す存在感や抵抗感、表現される形の表情の変化を強調し、その形の中に表される強さを作品としてまとめ、作り出された形態から広がりのあるイメージや、空間の動きの中で、人間の存在と時間の流れをテーマに作品にしている。

